

教科名	国語	単位数	2単位	担当者 瀧尻幸一・小杉一臣
科目名	論理国語（理系）	年次	2	
使用教科書 副教材等	大修館書店「論理国語」 第一学習社「頻出漢字3000」 いいずな書店「国語頻出問題1200」 数研出版「評論速読トレーニング1500」 尚文図書「グラimesteps現代文(論理・文学・実用)2.0」			
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）				
（知識・技能）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （思考力判断力表現力等）論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （学びに向かう力・人間性等）言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
2 学習の評価（評価規準と評価方法）				
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度	
観 点 の 趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
主 た る 評 価 方 法	小テスト（週1回） 考査（年4回） 提出物（適宜） 授業時の観察	考査（年4回） ※「読む」領域 提出物（適宜） ※「書く」領域 授業時の観察	提出物（単元毎振り返り／課題） 小テスト（取り組みの状況） 週末課題（提出状況） 授業時の観察 ※単元毎の振り返り 10% ※応用的課題の提出 10%	
占 め る 割 合	30%	50%	20%	
3 学習の目標と振り返り				
	≪目 標≫ ～何ができるようになりたいか具体的に～		≪振り返り≫ ～学習の振り返りと今後の課題～	
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】	
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】	

4 学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前	「世界を広げる『批評』の言葉」(読む)	○	◎		筆者が定義することを的確に押さえ、主張をとらえる。	考查
	「余白の美学」(読む)	○	◎		例の役割を理解し、意図を読み取る。	考查
	第1回定期考查					
	「家族化するペット」(読む)	○	◎		資料や事例と主張との関係を捉える。	考查
	第1回実力テスト					
	「コミュニティから見た日本」(読む)	○	◎		日本社会の特徴について、理解を深める。	考查
	「統計資料から分析したことを書く」(書く)		○	◎	自分の考えと統計資料から読み取ったことを区別して書く。	提出物(休業中課題と関連付け)
	第2回定期考查					
	「自己をモデル化する知能」(読む)	○	◎		科学技術の進歩と人間の本質について、考えを深める。	考查
	★発展:小説「山月記」読書		◎	○	人間の本質について考える。	提出物、考查
後	「敬語への自覚、他者への自覚」(読む)	○	◎		敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。	考查
	第3回定期考查					
	「スキーマと記憶」(読む)	○	◎		スキーマを理解し、物の見方を広げる。	考查
	「図版を分析して書く」(書く)	○		◎	図版資料から情報を抽出し、考えたことをまとめる。	提出物(休業中課題と関連付け)
	実力テスト					
	「社会的実在としての言語・法・貨幣」(読む)	○	◎		言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。	考查
	第4回定期考查					
	「心に『海』を持って」(読む)	○	○		普遍的な文明について理解を深める。	考查
	「調べたことをレポートにまとめる」(書く)	○	◎		目的を明確にして、適切な引用を行う。	提出物